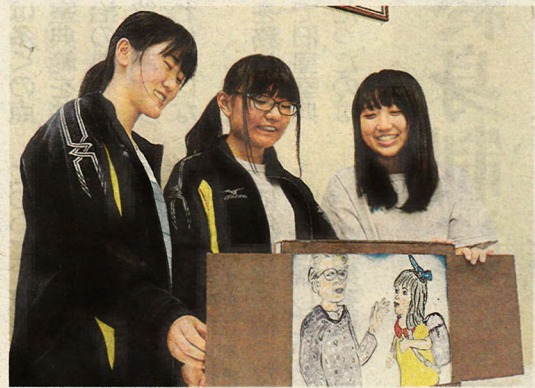


高 多治見高校生の活躍

H28.8.9 付の中日新聞朝刊に本校演劇部の活動が紹介されました。

認知症が分かる紙芝居 多治見高の3人読み聞かせ

紙芝居を読み聞かせる生徒たち
―多治見市の本土児童館で



多治見市の多治見高校演劇部に所属するいずれも二年の桜井美有香さん(左)、吉本有梨花さん(中)、六鹿南美さん(右)は八日、同市の本土児童館で、子どもたちに認知症を分かりやすく解説する紙芝居を読み聞かせた。

同市太平町の太平地域包括支援センターが、認知症への理解を深めてもらうと紙芝居を作成し、同校に読み聞かせを依頼。部員の一、二年生十九人を対象に認知症の講座をした。(秦野ひなた)

「私のおばあちゃん」と題した紙芝居はA3判の十二ページで、認知症の女性の孫が主人公だ。物忘れが多くなった女性を、優しく見守る姿を描いている。

この日は近隣の五歳から小学五年生までの子どもや保護者二十人が耳を傾けた。桜井さんは「病気について説明するときは、小さな子にも伝わるようゆっくり話すことを心掛けた」と振り返った。